

— 嘉麻市社協だより —

えがお

発行日/ 2015.2.1

No. 108

社会福祉法人 嘉麻市社会福祉協議会

〒820-0205 嘉麻市岩崎 1143 番地 3 稲築住民センター内

TEL.0948-42-0751 <http://kama.syakyo.com>

FAX.0948-83-8005 info@kama.syakyo.com

<https://www.facebook.com/kama.swc>

地域を
盛りあげていこうという
思いを込めて



～足白地区鬼火炊き～

身近な法律「民法」の知識を深める

民法入門学習会開催

12月から3月にかけて、稲築住民センター2階会議室で、職員研修会として民法入門学習会を開催しています。業務を行う中で、相続や時効、契約など民法の理解が必要なことに出席することがしばしばあり、知識を深める必要があると思います。基本から学ぶ内容で企画しました。県内の社協にも呼びかけると、うきは市社協と篠栗町社協が参加され、本会の職員も合わせて、参加者は10名です。

講師には、成年後見センター・リーガルサポート福岡支部の加藤丈雄司法書士をお招きし、民法の条文に沿って、民法総則、物権、債権等についての知識を深めています。また、普段の仕事の中で疑問に思っていることを質問することもできるので、困りごとを解決するための有意義な学習会となっています。



地域の防災を考える

地域防災ワークショップ

昨年10月から12月にかけて、鴨生町で、福岡県主催による地域防災ワークショップ(3回シリーズ)が開催されました。

初回(10月15日)は、講師の貞清潔氏(With Labo)による講演があり、災害時には「自分の命は自分で守る(自助)」、「地域はみんなで守る(共助)」が大切であり、平常時にその機能を高めていくための取り組みが必要であること、その活動の核となる自主防災組織の設立やリーダーの育成が求められていることなどを学びました。

2日目(11月12日)は、参加者が2つのグループに分かれて、災害図上訓練(DIG)を行いました。鴨生町全体の地図に、主要道路や避難場所、災害時に役立つ施設、要援護者のいる世帯、土砂災害警戒区域、過去に

浸水被害が起きた場所や起きそうな場所などを記したあと、実際に要援護者と一緒に避難する際の経路を考えました。



避難所までの道のりの危険箇所をチェックしました



鴨生町のマップが完成しました

3日目(12月21日)は、2日目に作成したマップを基に、実際に自主避難場所までの道のりや周辺の危険箇所などを歩いて確認して回りました。実際に歩いてみると、自主避難場所までは坂道や階段が多く、要援護者等が避難するには時間がかかること、避難経路に倒壊してしまいそうな家屋があること、溝のそばにあるガードレールが低くて危険なことなど、普段気づかない新たな発見がたくさんありました。

3回のワークショップを通して、自分たちの住む地域を見つめ直すことができ、鴨生町では、今後定期的集まり、災害について考える機会をもつことを検討されるそうです。

成年後見制度

Q. 成年後見制度を利用すると、選挙で投票することができなくなるのですか？

A. 以前は、公職選挙法により成年後見制度のうち「後見」については、選挙権が制限されていました。しかし、平成25年5月に成年被後見人の選挙権を回復するための公職選挙法等の一部を改正する法律が成立し、「後見」が開始された本人の選挙権の制限はなくなりました。

なお「保佐」及び「補助」が開始された本人については、もとも選挙権は制限されていないので、これまでどおり選挙で投票することができます。

本会では、日々の活動を紹介したり、いろいろな福祉情報を素早くお届けしたいという思いで、ホームページで、日記『嘉麻市社協のブログ』を書いています。そこから抜粋してきた記事をご紹介します。ぜひご覧ください。嘉麻市社協のブログ <http://kamasyakyo.chobi.net/wordpress/>

2014年12月22日



12月22日、今日は、稲築住民センター2階会議室で、さわやか福祉財団主催の『福岡県における新地域支

援勉強会』が開催されました。

平成27年度に予定されている介護保険の改正に伴う新地域支援事業について、ともに学ぶということうと企画され、県内の社協や福岡県、市役所、地域包括の職員さんなど30名が集いました。

まずは、事業の内容や生活支援コーディネーター、協議体の役割についての説明がありました。生活支援コーディネーターの機能は、資源開発、ネットワーク構築、ニーズと取組のマッチングとの話から、いろいろな意見が出されました。

『地域支援コーディネーターは、サービスを貼り付けるだけの第二のケアマネジャーではない。』
『この事業は社協が率先して考えていかなければならない。今まで社協は何をやってきたのかと問われているのでは？』

また、各市町村の考え方がまだ決まっていないという意見も多くありましたが、今後もこのように勉強会を重ねていくとう話になりました。また、本会からは第三層の生活支援コーディネーターへの取り組みを進めていくことになりました。

みなさんのお話を伺い、生活支援コーディネーターとは、日々社協職員がやっていることであることを改めて感じました。介護保険改正に伴い、たくさんの方が困る方たちが困らないような取り組みをしつかり考えていきます。

2015年1月14日



1月14日、今日の市民後見人養成講座は、認知症高齢者概論、知的障がい者概論について学びました。

まず、認知症高齢者概論では、宅老所よりあい代表の村瀬孝生

さんの講義で、これまで関わってきた方のことについて触れながら、『老い』について、『ボケ』ということについて、認知症高齢者の方が生きる世界について、地域住民や専門職の関わりについて話をされました。印象に残ったお話を言葉でいくつか紹介します。

・老いということと他人事ではなく自らの老いとしてみなさんにとらえてほしい。誰もが老いの階段を一つひとつ降りていき、できないことが増えていくのは当たり前で自然なこと。本人はできないことを受け入れているのに、まわりが受け入れることができず、安全、安心だけを優先して施設に入れと言いが、本人はそれでいいのでしょうか。

・認知症になると、妄想が出ることもあるが、自分が思ったことが事実(主観的事実)で、それは我々も何歳の人でも一緒であり、「違うでしょ」と対応する自分は客観的事実であり、私たちは認知症を作っている側であることを現場で感じた。

次に、知的障がい者概論では、NPO法人ちくほつ共学舎「虫の家」事務局長の高石伸人さんの講義でした。偏見を持たずにニユー

トラルな視点を持つこと、世間には、さり気なくではあるが「優生思想」の考え方が溢れていて、命を選別することにもつながるこの指摘がありました。また、成年後見制度のように「代行する」支援は、もちろん必要なことではあるが、自分のことは自分で決める自己決定を失いかねないという話があり、後見活動をする中でも自分の心にもしつかり留めておきたいと感じました。

ここには書ききれませんが、印象に残った言葉やお話をいくつか紹介します。
・ノーマライゼーションという言葉があるが、障害をもつ人を健全な人に近づけようとするという考え方になってしまっているのではないだろうか。同化させてはいけな

いし、できない。
・支援とは、関係が煮詰まらないようにちょっと間を置きながらあなたの困難を分けてもらって歩んでいけないだろうかという気持ちに伝えること。
どちらの講師の方からも、ありのままでもいいじゃないか、それぞれの生きるかたちがあるだけだということを教わり、とても興味深いお話で引き込まれました。

夏空を震わせて

白樺の幹に鳴く蝉に

おじぎ草がおじぎする

包帯を巻いた指で

おじぎ草に触れると

おじぎ草がおじぎする

指を奪った「らい」に

指のない手を合わせ

おじぎ草のようにおじぎした

これは、ボクの尊敬するハンセン病回復者、桜井哲夫さんの「おじぎ草」と題する詩です。桜井さんは二〇一一年の十二月二十八日、群馬県草津町にあるハンセン病療養所「栗生楽泉園」で八七歳の生涯を閉じました。残念ながらボクは桜井さんの末期のひと時に立ち会うことができませんでした。しかし、翌年五月に故郷青森で行なわれた納骨式には参列させていただきました。

言うまでもなく、と書きたいところですが、ハンセン病問題についての理解はまだまだ不十分です。ハンセン病は、「らい菌」という極めて微弱な病原性細菌によっておこる慢性の感染症で、今日の日本では、ほとんど感染しないといっても過言ではありません。しかしながら、かつてはハンセン病を「非文明病」「日の丸の汚点」と喻え、また「民族浄化」「社会を病気から守るため」など

と理由をつけて、一九〇七年から九六年までの八九年間にわたって、患者の強制隔離を継続してきました。そのため、一般住民もその誤った情報や報を鵜呑みにして、地域に住む患者の存在を密告、排除し、結果的に差別に加担してしまいました。まさに、信じ難いほどの、人を人とも思わぬ非道残酷な差別行為が国策の名のもとに罷り通りました。冒頭に紹介した桜井さんも本名は「長峰利造」です。家族を差別から守るために偽名を名乗らざるを得なかったのです。また、子どもを産むことも許されませんでした。子孫を残させないために、断種や不妊手術を強制されてしまったのです。しかし医療体制が不備の中には手術が失敗して子どもを授かった人もいたのですが、結局、療養所職員に見つかって墮胎を強いられました。

さらに、療養所の園長には懲戒検束という警察権まで認められていましたから、たとえば人間らしい暮らしがしたいと、少しでも異議を申し立てると、所内に設置された監禁室に拘束されたり、秘密裏に草津の療養所に造られた「重監房」に入れられたりしました。そこでは一九三八年から四七年までに九三人が投獄され、そのうち三三人が、マイナス十五度の厳寒の冬期に、ある若

者は「干からびたカエル」のように、またある人は精神を患って死んでいきました。

今も全国の十三の療養所には一八五〇人ほどの人が生活しています。平均年齢は八三歳で、みなさん病気は回復しているのに、帰るべき故郷を失い、療養所を終の棲家と心を定めた人たちです。その一人ひとり、計り知ることができない、幾千もの眠れぬ夜の想いを呑みこんで、今この時を過こしておられるのです。その多くは最期は所内の納骨堂に入ることを決めておられて、桜井さんのようなケースは稀だと聞きます。

桜井さんが詩を書くようになってきたのは五〇歳を過ぎてからです。目が見えず、指も不自由なので舌で点字を読んで学びました。ボクは生前に四回しか逢っていないのですが、その度にさり気ない気遣いでボクを迎えてくれました。そんな桜井さんも所内で断種を強制され、手術の失敗で娘さんを授かったのですが、その尊い命を奪われました。翌年にはお連れ合いにも先立たれていきます。桜井さんの顔には、そんな地獄の日々が、ハンセン病の重い後遺症とともに深く刻まれていきます。それでも、桜井さんは「ありがとう」と「おじぎする」のです。なぜなら、「問

違った国策は許せないけれど、こうして高石さんに逢えたのも、ぼくがハンセン病を生きてきたからでしょう」と答えられました。では、排除してきた側のボクたちは何を学び、今どこに立っているのでしょうか。



高石伸人さん
プロフィール

NPO法人ちくほう共学舎「虫の家」事務局長。九州龍谷短期大学及び筑紫女学園大学非常勤講師。1949年生まれ。大学卒業後、(社福)直方市社会福祉協議会ソーシャルワーカーを経て、1997年から2008年3月まで九州龍谷短期大学教授。かたわら1986年から自宅敷地内で、障害者地域活動センター「虫の家」を共同運営。その一角に2008年から「杉野ハンセン病資料室」を開設した。著書に、『水保50年ーひろがる「水保」への思い』(作品社、共著)、『新優生学』時代の生老病死(現代書館、共著)など、論文に「証言…へらい予防法」を生き「閉塞する死」『商品化社会』の精神に関する一考察」他がある。福岡県小竹町在住。

障がい児日中一時支援事業のご案内

本会では、障がいを持つ子どもたちが、学校の放課後や長期休暇期間を充実して過ごせる場を提供しています。現在、34名の子どもたちが利用していて、季節の行事やボランティアとのふれあいをつうじて楽しい時間を過ごしています。利用に際しては、事前の見学もできますので、お気軽にご相談ください。

利用できるのは・・・18歳未満の児童で、嘉麻市、飯塚市、桂川町の地域生活支援事業の利用決定を受けた方です。

利用場所は・・・本会の事業所は市内に2カ所ありますので、ご都合に合わせてどちらでも利用することができます。

- ・嘉麻北日中一時支援事業所 嘉麻市鴨生339-8 (嘉穂特別支援学校横)
- ・嘉麻南日中一時支援事業所 嘉麻市上山田502-6 (山田ふれあいハウス内)

利用できる日時は・・・以下の時間帯の中で利用することができます。

- ・月曜日から金曜日・・・15時から19時まで ・土曜日、祝日、長期休暇期間・・・8時30分から17時まで (事前にご連絡いただければ、朝8時から、夕方は18時まで利用可能です。)

利用料金は・・・1回につき122円～567円で、障がい区分や利用時間により異なります。(生活保護世帯の方は無料です。)

その他・・・本会独自のサービスとして

- ・おやつ提供・・・希望に応じて1日1回100円 ・事業所までの送迎・・・距離に応じて100円～300円 (利用に際しての送迎は、原則としてご家族が行うことになっています。しかし、それができない方については、平日のみ、市内の学校やスクールバスの停留所までお迎えに行っています。)

お問い合わせ 嘉麻市社会福祉協議会 ☎0948-42-0751

みんなで楽しんだひととき

日中一時支援事業 クリスマス会



クリスマスカードやツリーの飾り作りに夢中



飾り付けをしたツリーが完成しました

12月24日(水) 嘉麻北日中一時支援事業所でクリスマス会を開催し、14名の子どもとボランティアが参加しました。スタッフ手作りのクリームシチューとビーフシチューをお腹いっぱい食べた後は、織田廣喜美術館の方との工作の時間で、クリスマスカードやツリーのオーナメントを作りました。手や顔に絵の具がつきながらも、みんな夢中になって楽しく色を塗り、いろんな個性溢れる作品が出来上がりました。飾りつけをして、明かりを点すとツリーが完成し、クリスマスの雰囲気はいっそう高まり盛り上がりしました。合図とともにスタッフが扮したサンタとトナカイが登場すると、笑顔になる子もいればびっくりして泣き出す子もいました。一人ひとりにプレゼントを渡すと、「中身は何かな」と大喜びで笑顔が溢れ、とても楽しいクリスマス会となりました。



サンタからのプレゼントは何かな？

「読めば答えが見つかるかも」 社協だよりクイズ

「広報紙えがお」を読んで、次のクイズにお答えください。正解者の中から抽選で2名の方に、図書券(千円分)をプレゼントいたします。

● ● ● 問 題 ● ● ●

日中一時支援事業所クリスマス会で、スタッフがつ作った料理は何でしょう？

(1) シチュー (2) ハンバーグ
(3) キムチ鍋

● 応募方法 ①クイズの答え、②広報紙の感想、③郵便番号・住所、④氏名、⑤年齢、⑥電話番号をご記入の上、2月28日(必着)までにハガキ、またはEメールにてご応募ください。

● 送付先 〒820-0205

嘉麻市岩崎1143番地3

嘉麻市社会福祉協議会

E-mail: link@kana.syakyoo.com

● 前号のクイズの答え (3)

判断能力が十分でない方の生活を支え、同じ地域の住民として後見活動を行う人は、市民後見人でした。

● 応募のあった方から社協だよりの感想をいただきましたので、紹介します。

・ 寄稿 「生まれてきてくれてありがとう」は私の保存版です。

・ オールカラーで大変見やすく、ページ数もちょうど良く、いろいろなコーナーがあり、読みやすくなる記事ばかりで面白かった。

※ 当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。

越冬支援物資を届けました

11月から広報紙やブログを通じて、ホームレス支援物資を募集したところ、市民の皆様からジャンパーやセーター、毛布など150点をお寄せいただきました。

12月19日（金）に、それらの支援物資をNPO法人抱樸（旧北九州ホームレス支援機構）に届けてきました。抱樸は、冬の間、毎週金曜日に炊き出しや北九州市内の巡回を行っており、その際に渡していただきます。

スタッフの川内さんは「今季は例年に比べて、本格的に寒くなるのが早かったので、とても助かります。嘉麻市から毎年たくさんの物資を届けていただき、支援活動のことを心に留めてもらっていることをとても嬉しく思っています。」と話されていました。

ご協力いただいた市民の皆様、本当にありがとうございます。



皆様からお寄せいただいた物資は段ボール30箱分にもなりました

万が一の事故に備えて

ボランティア活動保険のご案内

ボランティア活動保険は、自身の活動中の怪我や他人の体や物に損害を与えてしまったときなど、万が一の事故を補償するものです。

平成26年度に加入されている方の補償期間は平成27年3月31日で満了となります。来年度の加入については、3月から受け付けますので、更新の手続きをお願いいたします。

なお、内容によっては、保険の対象とはならないものもありますので、詳しくはセンターまでお問い合わせください。

【補償期間】

平成27年4月1日～平成28年3月31日まで

※4月1日以降に加入された方は加入日の翌日からの適用となります。

【年間保険料】

基本タイプ Aプラン 300円 Bプラン 450円

天災タイプ Aプラン 430円 Bプラン 650円

※天災タイプは基本タイプに加え、地震や津波、噴火による怪我也補償します。

ボランティア募集情報

自主学習 サポート

児童養護施設嘉麻学園では、小・中学生の自主学習をサポートしていただける方を募集しています。

日時 月曜日～金曜日

午後4時30分～午後8時

※可能な曜日や時間帯で構いません。

場所 嘉麻学園（嘉麻市漆生 2347-1）

内容 国語の教科書の音読や宿題のサポート

備考 事前の見学も可能です

レクリエーションのお手伝い

特別養護老人ホーム松寿園では、入所者のサポートをしていただける方を募集します。

日時 月曜日～金曜日

※可能な時間帯で構いません。

場所 松寿園（嘉麻市漆生 2338-1）

内容 レクリエーションの補助、行事のお手伝い、話し相手など

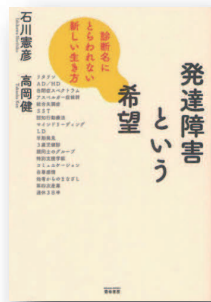
募集人数 2～3名

備考 動きやすい服装、室内履きをお持ちください。

今月の

一冊

発達障害という希望
～診断名にとらわれない新しい生き方～



編著 石川憲彦 高岡健
出版社 雲母書房

この本は、長い間、発達障害に関わってきた二人の精神科医 石川憲彦さんと高岡健さんの対談で構成されています。お二人は、発達障害ブームとも言える昨今の流れに疑問を抱いておられ、本人の希望とは異なる他者の求める進歩や発達のために、診断と治療を押し付けられている現状が詳しく書かれています。どんな人でも発達障害だとカウントすることができるとは、脳の間違ったことや、発達障害について、脳の異常と断定できるわけではなく、肯定的に受け止めるまなざしや、多様性に尊重するゆとりを学校や社会が失っているため、増加傾向にあると感じられているだけであると述べられています。

次に、薬を使わない治療法に触れ、石川さんは、子どもが騒いで眠れないとい

う保護者がいたら、子どもに睡眠薬を飲ませるのは基本だと言います。また、「ほとんどの投薬は、病気に効くのではなく生活上の必要悪である」と語り、薬を処方する問題点にも触れています。「毒になるから使わないほうがいい化学物質をあえて使うためには相当の理由がある」という言葉には衝撃を受けました。

また、不登校については、かつては、背景にいろいろな病気があるとされて、病気を治療することで解決していこうという発想があり、それを発達障害と結び付けていたそうです。けれど、それは間違っていて、自分で自分を戻すためのとても価値のある生き方であることが書かれています。ひきこもり支援事業を担当している私にとって、とても勉強になりました。

障害を異質なものとして分けて「私がこの子を理解してあげなければ」と考えるのではなく、「この子と一緒にいるとおもしろいな」「こうすれば伝わりやすいな」と当たり前のように接していけるような環境が大事であり、そういう見方を周囲の方たちがしてくれるかどうかによって、本人の生きやすさは変わってくることを強く感じた一冊でした。

(きはら)

No. 95

炭鉞の記憶

岩崎在住の永光(旧姓 中野)久一さんは、昭和28年に三井山野鉞業学校を卒業後、三井山野炭鉞で、通気補修の仕事をされました。通気補修とは、坑道内の空気の通り道を作ることです。送風機から風管を通して風を送り出し、空気を流します。他にも、のこぎりや釘等の大工道具で、使用しなくなった坑道の部分に防火壁を作ることや仕事の一つでした。通気補修には約30名の方が勤めており、ガスが溜ることがないように坑道内を管理し、火災等の事故を防ぐ大切な役割でした。

永光さんは、学校でしっかりと学んだことが仕事に生かされたときを振り返り、「学校では野球部で練習漬けやったけど楽しかった。仕事もとてもやりがいがあったよ」と話されます。昭和36年頃から、国の政策により石油への転換の動きが進みだすと、『石炭政策転換要求

大行進』が各地で展開されました。永光さんは筑豊地区の第一陣として参加しました。一日目は福岡市で開催された大集会ののち飯塚市まで行進、翌日にはドシャぶりの雨の中、小倉まで歩き続けたそうです。昭和38年に閉山した時はやっぱり残念だったと話されますが、炭労新聞や写真、資料等を大事に保存して、炭鉞時代を笑顔で語る永光さんは、炭鉞があったからこそ今の嘉麻市の発展があることを私たちに教えてくださいました。



当時発行されていた炭労新聞



『石炭政策転換要求大行進』での筑豊地区の第一陣メンバー

炭鉞時代の懐かしい写真や思い出などを募集しています。嘉麻市社会福祉協議会までご連絡いただければ幸いです。TEL 0948(42)0751

法人運営 information

嘉麻市社会福祉協議会では、下記のとおり法人後見等受任者定期監査、権利擁護支援運営委員会を開催しました。

記

法人後見等受任者定期監査

《開催日》 平成26年12月10日（水）

第1回 権利擁護支援運営委員会

《開催日》 平成26年12月18日（木）

- ・委員長、副委員長の互選について
- ・本会の権利擁護支援の仕組みについて
- ・法人後見等定期監査報告について
- ・地域福祉権利擁護事業の利用者状況について

今月のえがお

最近えがおになった出来事を教えてください!



たきいし あきと ひろみ
滝石 爽斗くん・博美さん

お正月に飯塚のラジウム温泉に行きました。家族でのんびりと過ごせて、笑顔になりました。

ご案内

★在宅介護者の集い★

在宅で介護をされている方が、いろんな情報交換をし、楽しくリフレッシュしています。

2月12日（木）

稲築住民センター

（岩崎1143番地3）

3月12日（木）

山田ふれあいハウスにて

（上山田502番地6）

※時間はいずれも13時～15時までです。

日時等が変更になることもございますので、事前にご連絡ください。

【お申し込み・お問い合わせ先】

嘉麻市社会福祉協議会

☎094814210751

E-mail: fijk@kama.syakyu.com

★ひきこもり家族の集い★

ひきこもりの家族を持たれている方々と、いろんな悩みを話したり、情報交換をします。

2月26日（木）

3月26日（木）

13時～15時

※ひきこもり家族の集い、かまっぴ編集会議の場所は、いずれも寄ってこハウスです。

★かまっぴ編集会議★

ママの目線でつくる子育て情報紙こども目線♡かまっぴ♡を、みんなで楽しく編集しています。今回は11号から20号をまとめます★

2月2日（月）、9日（月）、

16日（月） 10時～12時

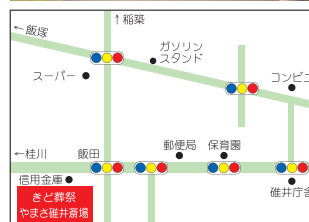
きど葬祭やまさ碓井斎場

嘉麻市飯田 214-1
☎62-4499

指定葬祭場紹介

高齢化社会が進む中、お葬式の施行内容や金額などが見直されています。時代のニーズに対応した「きどやまさ倶楽部」では、様々な会員特典がついています。この機会にぜひご入会ください。スタッフ一同、真心込めてお手伝いさせていただきます。

葬儀申込み時に、「嘉麻市社会福祉協議会の指定でお願いします」とお伝えください。葬儀にかかる費用の一部について割引を受けることができます。



嘉麻市社会福祉協議会指定葬祭場は、きど葬祭やまさ碓井斎場を含め、市内に8カ所あります。

ひさつね会館・・・☎52-0758
セレモニーホールおおつか・・・☎52-1212
善光会館 稲築会場・・・☎83-5000
飛鳥会館 南斎場・・・☎(0120) 42-2241

いすや会館・・・☎57-4444
かほ葬祭 あじさい会館・・・☎62-5566
おかむら葬祭 岡村会館・・・☎42-4420

みなさまの善意、
心より厚くお礼申し上げます。



寄附・香典返し

12月1日～12月31日受付分

●香典返し

【枝坂】

親族 白土 美恵子 様
故 摩 治 ヤエ子 様

【鴨生北町】

親族 大田 貴美子 様
故 大田 幸盛 様

【下臼井西】

親族 田中 末勝 様
故 田中 ナミ 様

【熊ヶ畑第三】

親族 渡辺 るみ子 様
故 渡辺 セキ子 様

【三菱第二】

親族 北島 キミエ 様
故 北島 弘秋 様

【中山田下】

親族 佐藤 恒治 様
故 佐藤 サタミ 様

【石ヶ崎】

親族 渡邊 滋 様
故 渡邊 泰雄 様

【中益】

親族 大里 翠 様
故 大里 道輔 様

【下益】

親族 田中正弘 様
故 桑野 ミサヲ 様

【一般寄附】

嘉穂の名水愛好者一同
カラオケ(ミサ)
木目込み人形教室
むつみ会 様

【子育てリユース】

飯田 松隈 明美 様
熊本 中島 瞳 様
上臼井下 坂田 千鶴 様
石ヶ崎 渡邊 綾 様

【アルミ色】

漆生南部 岩田 勇治 様
漆生南部 西田 幸子 様
樋渡 藤春 一枝 様
枝坂 森 章枝 様
枝坂 久家 浩史 様
鴨生北町 矢野ささ子 様
百々谷 橋本 利根 様
百々谷 吉元 悦子 様
中央 明石 睦則 様
石ヶ崎シニアクラブ 様
嘉麻市商工会 様

【リングブル】

漆生中央 浄照寺 様
東岩崎 匿 名 様
山野 匿 名 様
平第二 匿 名 様
枝坂 森 章枝 様
尾浦第一 宮本 律子 様
日吉 穴井 眞子 様
下牛隈 松尾 菜央 様
ふるさと探検隊 様
嘉麻市温水プール 様
スイミングプラザなつき 様
つばさ学園グリーンエコ班 様
上山田小学校奉仕委員会 様
長円寺仏教婦人会 様
石ヶ崎シニアクラブ 様
東尾谷えがを組 様

【古切手】

山野第二 古賀 絹江 様
銭代坊 山下スミ子 様
日吉 穴井 眞子 様
下山田郵便局 様
榊トモス 様
嘉麻市福祉事務所保護課 様
教育ナビゲーション(榊) 様
上山田小学校 様
【使用済テレカ】
飯塚市 セービング 様
古河 塚原 京子 様

あなたの会費が、社協の地域
活動を支えています

会員として、次の方々に
ご加入いただきました。

(敬称を省略させていただきます)

12月1日～12月31日受付分

〈漆生中央〉山下久美子

〈西岩崎〉榎山ツナ子(三口)

〈口春〉江藤裕子

〈緑ヶ丘〉戸田量夫、高瀬美千代、岡田国夫、氷室計介、高島国臣、樺山百合子、坂川隆(三口)、渡部淨子

〈枝坂〉那須勝彦、手嶋省治、岡本拓彦、中村時和、草場辰己、谷口信典、川端美恵、村松美代子、森章枝、藤野靖子

〈熊ヶ畑第三〉大田竜司

〈中山田上〉高木みどり、石橋運、瓜生誠子、中村市治、松岡孝子、山崎秀二

〈飯田〉臼井祥恵



3月の総合相談

法律相談は予約が必要です。先着順となっておりますので、お早めにお申し込みください。

嘉麻市社会福祉協議会
☎0948-42-0751

法律相談

と き:3月5日(木)
13:00～16:00
ところ:山田ふれあいハウス

と き:3月19日(木)
13:00～16:00
ところ:稲築住民センター

心配ごと相談

と き:3月11日(水)
13:00～15:00
ところ:稲築住民センター

と き:3月25日(水)
13:00～15:00
ところ:稲築住民センター

ふるさとへの手紙

No.108



山口県周南市在住
水井 賢二さん
(旧姓：粉井)
68歳
足白出身

ふる里は私の青春の原動力

ふる里の足白に住んでいたのは山田高校卒業迄の18年間でしたが、現在の私も含めた青春の源となる体験や知識はこの間に形成されたと言っても過言ではありません。ふる里を離れ山口県での11年間は大学卒業と日新製鋼(株)勤務でのステンレス鋼の製造技術習得でした。その後の人生は22回の転居という酷いものでした。

東京本社―米国事務所―周南―本社―名古屋支社―広島―大阪等を転々としてきましたが、私の人生の中でふる里を一番強く想い出し、助けられ感謝したのは米国事務所時代でした。30代半ばの1978年から1984年までの6年半を家族と共に生活したニューヨーク時代。最初は自信たっぷりの英会話が全く通じず愕然としたが、「英会話は度胸だ」と割り切ったら言葉の伝達には問題なくなりまし。しかしながら次に衝撃的な事に直面する事になります。欧米人との会話で専門的な知識に関しては問題なく出来ても、パーティー等では日本人としての総合

的な知識や経験等が乏しいと会話の中に入れないのです。

そんな時ふる里での18年間に農林業を営む家族の手伝いをしたり、真似をしてトマト、ナス等の温床栽培、豆腐作り等した経験、知識が大変役立ち、私も会話の輪に入りました。この時私は退職後は寺子屋塾で世界で活躍出来る子ども達を育てようという心を決めました。

12年前に会社を早期退職して大阪より山口へUターンし、生活基盤確立後2年後に「DAWN(夜明け)四熊村塾」を開塾して子ども達に日本古来の文化(稲作は全て手作業、石臼と杵の餅つき、豆腐、柏餅、竹の子掘り、座禅、茶道等)の体験と英会話は本場の米人講師に教えさせています。農業は全て無農薬で稲作は絶滅危惧種の黒メダカ、ドジョウ、タニシの棲む田んぼで各種果物(リンゴふじ、白桃、サクランボ、ぶどう、幻の果物のポーホ、晩白柚等)アンデス原産のヤーコンもダイエツト食品で力を入れております。

今は更に「消滅集落」を「赤ちゃんの泣き声のするタニシ踊りの里山に！」すべく来年は新市長と共にふる里で培った知識を礎に「農林業高等専門学校(農林業の工専版)」を休校跡地に設立し地域起こしの拠点にしたいと思っています。まさに、作詩家「ザミエル・ウルマン」の「青春」をやっております。

★編集後記



P4の寄稿、桜井さんの詩が心に響いてきました。また、現在でも、ハンセン病の方たちが『幾千もの眠れぬ夜の想いを呑みこんで、今この時を過ごしておられる』ことを知り、もっとハンセン病のことを学びたいと思いました。(きはら)



炭鉱の記憶の取材では、お話を聞くだけでなく、実際に今も残っている坑口の跡や社宅があった場所等を見ながら説明していただきました。頭の中で当時の様子を描き、それから資料等を見せてもらうことで、より歴史の深さを感じました。(みぞくち)



鴨生町で行われた防災ワークショップの一コマで、災害図上訓練が行われ、地域のマップを作りました。自分たちの住む地域を見つめ直すきっかけとして、マップ作りを活用していきたいと思いました。(たけがわ)



成年後見制度Q&Aでは、内容が難しいものが多くなりがちです。そこで、今回は、私たちの身近なものとして、選挙権についての問題にしてみました。今後も生活に身近なものをできるだけ取り上げていきたいと思えます。(ながの)



日中一時支援事業所のクリスマス会では、今回2種類のシチューを初の試みで作りました。どちらのシチューもとても好評で、おかわりをする子もいました。たくさん食べてくれて、とても嬉しくなりました。(かじ)



赤い羽根共同募金は皆さんから沢山のご協力をいただきました。支会だより作成に携わりながら思い出す事は募金活動を行っていた時に「大変やろうけど頑張ってるね」と声を掛けていただいた事がすごく励みになり嬉しかったです。(ふかがわ)

コラム交差点

「悠久の流れ、長江」

以前夫と、長江の三峡クルーズに参加した。上海まで飛行機でいく。次の日、南京市内を観光する。玄武湖をみて中山陵を見学して、金陵飯店(五ツ星ホテル)へ。ターナーテンプルの

上に食べてしまうには、惜しい位の見事に手のこんだ料理が並ぶ。給仕の人が紹興酒を次々と注ぐ。あけると又すぐに満たす。何度か繰り返す。これ以上は駄目。思案の末、グラスを伏せる。正解だった。明日は重慶だ。到着後すぐに市内をめぐる。長江大橋や鶴嶺公園。巨大石像郡を見て回る。ピルのような石造りの動物の間を歩くと、人々がミニ

チュアの人形のような。午後、チャーター船で三峡クルーズに出発する。いよいよ長江を下る。船は緩やかに進む。両岸の切り立った岩壁に圧倒されながらも、シャッターを押す。自然の造形に畏怖さえ覚える。途中下船。雲陽に上陸。張飛廟のまわりの景観のすばらしいこと。白帝城までの石段が、七百段から八百段と聞いてびっくり。でも歩かしくない。曲がりくねった道幅の狭い場所を登る。現在、此処は長江の水底に沈んでいる。屈原記念館を見たあとに、再び乗船。三峡のハイライイトへ向かう。途中、観光客の為に、ペーロン(飛竜)競争を特別に開催してくれる。か。川面に三艘浮かんでいる。船が鋭くとがった所に青龍

や黄龍の頭が取りつけてある。救命胴衣を着せてもらった。一艘に十四人ずつ別れて乗り込む。太鼓や銅鑼を打ち鳴らす。船頭の太鼓のリズムに合せて櫂を使いまわす。水を押ししたり、引いたり。側でみる分には楽しいのだが、自分が漕ぐと肩に力が入りすぎ、手のひらも痛い。流石につかれてきた。ゴールはまだか。もうギブアップと思った時太鼓がひときわ大きい音を出した。船頭が人差し指を立て何か言ったが、さっぱり分からない。まわりを見て理解した。一等になったんだ。皆で喚声をあげた。遙か昔の懐かしい、思い出のひとこまで。

(下山田新原 中山 和子)